

概念集シリーズ

への索引と註

～ 1 9 9 6 ・ 1 ～

目次

わ・ワ 18	ら・ラ 18	や・ヤ 18	ま・マ 17	は・ハ 16	な・ナ 16	た・タ 15	さ・サ 14	か・カ 13	あ・ア 12	人名	わ・ワ 11	ら・ラ 11	や・ヤ 11	ま・マ 10	は・ハ 9	な・ナ 9	た・タ 8	さ・サ 7	か・カ 5	あ・ア 4	テーマ	序文 3
	り・リ 18		み・ミ 17	ひ・ヒ 16	に・ニ 16	ち・チ 15	し・シ 14	き・キ 13	い・イ 12		り・リ 11		み・ミ 10	ひ・ヒ 10	に・ニ 9	ち・チ 8	し・シ 7	き・キ 5	い・イ 4			
	る・ル 18	ゆ・ユ 18	む・ム 17	ふ・フ 16	ぬ・ヌ 16	つ・ツ 15	す・ス 14	く・ク 13	う・ウ 12		る・ル 11	ゆ・ユ 11	む・ム 10	ふ・フ 10	ぬ・ヌ 9	つ・ツ 8	す・ス 7	く・ク 6	う・ウ 4			
	れ・レ 18		め・メ 17	へ・ヘ 17	ね・ネ 16	て・テ 15	せ・セ 14	け・ケ 13	え・エ 12		れ・レ 11		め・メ 10	へ・ヘ 10	ね・ネ 9	て・テ 8	せ・セ 7	け・ケ 6	え・エ 4			
	ろ・ロ 18	よ・ヨ 18	も・モ 17	ほ・ホ 17	の・ノ 16	と・ト 15	そ・ソ 14	こ・コ 13	お・オ 12		ろ・ロ 11	よ・ヨ 11	も・モ 10	ほ・ホ 10	の・ノ 9	と・ト 8	そ・ソ 7	こ・コ 6	お・オ 4			

わ・ワ……	ら・ラ……	や・ヤ……	ま・マ……	は・ハ……	な・ナ……	た・タ……	さ・サ……	か・カ……	あ・ア……	書名
30	30	30	29	27	27	25	23	21	19	
	り・リ……		み・ミ……	ひ・ヒ……	に・ニ……	ち・チ……	し・シ……	き・キ……	い・イ……	
	30		29	28	27	25	23	22	20	
	る・ル……	ゆ・ユ……	む・ム……	ふ・フ……	ぬ・ヌ……	つ・ツ……	す・ス……	く・ク……	う・ウ……	
	30	30	29	28	27	26	24	22	20	
	れ・レ……		め・メ……	へ・ヘ……	ね・ネ……	て・テ……	せ・セ……	け・ケ……	え・エ……	
	30		30	29	27	26	24	22	20	
	ろ・ロ……	よ・ヨ……	も・モ……	ほ・ホ……	の・ノ……	と・ト……	そ・ソ……	こ・コ……	お・オ……	
	30	30	30	29	27	26	25	22	20	

刊行委作成の写真・図 …… 31

概念集各号の訂正リスト …… 32

概念集シリーズに関する刊行委の討論断片 …… 34

あとがき …… 37

序文

概念集・別冊1の序文で、概念集シリーズの全号／全項目が潜在させているエネルギーと方法を今後出会うテーマに応用していくプランを予告したが、その具体化の一つとしての別冊シリーズと共に、概念集1～12の項目、方法、人名、書名などについての索引を作成してみる作業にとりかかった。ただし、索引の作成自体を目的にしたというよりは、その作業の持続によって何か別のものが見えてくるかも知れないという予感からである。何か別のものという場合、概念集シリーズに象徴される過程の根拠を再把握する位置の移動と交容といいかえてもよい。それを発見しつつあるとまでは断言しないまでも、その成果は日々の生活／活動の過程に出現し始めているが、パンフレットの形態としての表現に具体化するにはまだ時がかなり必要であろう。しかし、このパンフレットにまとめたテーマ、方法、人名、書名などについての索引自体が、これまでの概念集シリーズから放射されていた既成のヴィジョンを突き動かす作用を帯びる新しい表現の萌芽を内包しているとはいえるかも知れない。^{そし}、それ以上に、この索引がまだ出現していない何かの媒介であり、その何かを共闘的に作り出していくための不可欠の条件であるという予感を私と共有していただきたい。

凡例

「G1・1」は「概念集1の1ページ」

「G2・3右」は「概念集2の3ページ右（2ページ裏）」

「G別」は「概念集・別冊」

「G索」は「概念集シリーズへの索引と註」

「G資」は「概念集シリーズへの補充資料」
をそれぞれ示す。

冒頭の・印は目次に記載されていること、

傍線は関連する表現のコピーを掲載していることを示す。

テーマ

あ・ア

- i (虚数↓複素数を参照) G 4・5、G 7・16
- アイヌ G 4・8、9、G 5・11
- アイヌ革命論 G 11・22
- アイヌモシリ G 1・15、G 5・11、G 11・18、23右
- アスカ G 7・11
- アドレセンス G 7・5
- 油コブシ G 12・10
- アマ・アマナ G 1・37
- RB 302 G 2・11、G 11・12

い・イ

- e (自然対数の底) G 4・3、7、G 5・5
- 異星人(宇宙人) G 1・35、G 7・10、G 11・23
- 委託 G 1・24
- 103教室 G 2・11
- 103出版 G 9・3
- 103通信 G 11・11
- 103被告団 G 2・11

- 一票対0票 G 2・14
- 医療におけるスバゲティー状況 G 8・5右
- 医療方法と身体感覚 G 8・2
- 韻律と響き G 13・7
- 痛みの感覚 G 8・3、G 資・17
- 韻律(の越境) G 3・15

う・ウ

- ウイルス G 8・17、G 別1・6下、G 素・33
- 宇宙空間 G 5・19、G 8・14 (参照↓内部の宇宙)

え・エ

- A 36.7ドイツ語資料室 G 2・10、G 3・20、G 4・17、27、G 5・26、G 8・25
- A 430松下研究室 G 5・21、G 11・26 (参照↓研究室)
- エイズ G 素・33
- SF世界 G 6・2
- 〈X〉 G 7・2
- n事闘争 G 1・34、G 5・26、G 9・12
- エロス性 G 5・7
- エロス領域 G 1・1
- エロスの波 G 5・28、G 12・10
- エントロピー G 11・28、G 12・10
- 縁起 G 資・30、31

お・オ

- オウム以後のガケ崩れ G 別1・30
- オウムがもたらした概念の位置 G 別1・26
- オウム裁判を真に開始するために G 別1・9
- オウムを論じるための前提 G 別1・7
- 大阪刑務所 G 資・7
- 大阪府立夕陽丘図書館・閲覧カード G 10・10右
- 屋上からの光景 G 8・20
- 音(音階) G 3・16
- オーパーツ G 1・35、G 7・11
- おふでさき小論 G 9・21

か・カ

・概念 G 1・1

・概念の欠如が引き寄せる言葉 G 3・1

・華蓋（中国語の発音は「ホアカイ」に近い。） G 2・24

・科学（参照↓技術） G 1・28、G 9・28

・河川敷・身体・空間 G 10・6

・仮装 G 1・18、G 別1・23

・仮装証言 G 1・18

・仮装組織論 G 11・19、28右、G 別1・23右、24右

・仮装被告団 G 1・19、G 4・18、19、G 7・7

G 9・5、G 資・5右

・カタカムナ文明 G 9・24、29右、G 11・23、28

・家畜制度 G 8・17、G 11・21、23

・<<>>の項目には「」なども入れる。

G 1・4、13、18、21、25、29、G 2・6、12、

18、20、24、28、29、G 4・7、18、G 5・16、

29、G 6・7、G 7・2、G 10・20、G 11・26、

28右、G 12・1、22、25右、G 別1・10、23右、

24右

・色 G 2・6

・化 G 1・2、G 6・21、G 10・9、26

・概念 G 5・7

・<<>型六対（または六対の<<>） G 1・36、G 6・5、

G 9・32、G 10・21、G 別1・20

・過程 G 1・29、34、G 2・12、G 8・18、G 11・12

・空間 G 2・29

・公判（裁判） G 1・22

・獄 G 11・27右、G 12・2

・小屋 G 10・8

・語 G 5・19

・周期 G 2・21

・性 G 3・21

・存在（参照↓<<>）

・大学 G 1・24

・的 G 2・22、G 別1・26

・闘争 G 1・1、24、30、35、G 3・22、G 5・2、

21、G 10・24

・版 G 5・2

・表現 G 1・36

・表現集 G 10・10

・的変換 G 別1・26

・広場 G 1・25、36、G 10・8、27、G 12・2

・焼き G 1・25、G 2・23、G 4・14、G 5・21、

G 11・13

・論 G 3・15、G 5・16、29

・学校（不要論） G 7・14右

・学校給食 G 7・13

・渦動曲線 G 11・25

・甲山（かぶとやま） G 8・20

・甲山事件 G 1・12、15、G 3・9、G 4・18、

G 8・21、G 11・19

・釜崎 G 10・4、6 カミサシ G 11・2

・神の後姿 G 7・10

・ガン G 8・11

・関係としての指数・対数性 G 4・1

・監獄 G 1・9、G 6・12、16、G 7・10、G 12・2

G 別1・9、G 資・3、14

・監置 G 3・13、14

・カンパ G 3・4

き・キ

・器官 G 3・2

・既刊表現の総体と今後の作業方向 G 9・2

・技術（参照↓科学） G 2・3、G 6・24、26、30、

G 12・5

・茸 G 7・14

・忌避 G 3・11、G 別1・9

・奇妙な論理—疑似科学批判の批判— G 9・28

・救援通信最終号を媒介する討論のために G 5・23

・曲線（グラフ）の和 G 5・5

虚質 G 4・4、7、G 7・18

・居住と住居 G 9・25

・居住とライフライン G 12・18

虚数(参照↓複素数) G 7・16

く・ク

・空間とコンテキスト(堀川) G 6・18

・空間や留置品と共に成長する深淵 G 3・22

空間論 G 11・27

「く」の字形12個(参照↓へ▽型六対)

空白 G 10・2、25、G 11・22

・楔(くさび) G 11・2、29

クナシリ蜂起 G 5・11

クリシュナ神 G 12・3

け・ケ

刑事訴訟法24条 G 3・11

刑事訴訟法336条 G 11・18

・ゲームの(不)可能性 G 5・9

ゲバラ G 5・11、G 7・12

研究室公判(参照↓A 4 3 0 松下研究室) G 1・24

G 5・26

幻想過程と現実過程の逆転 G 5・30、G 7・2

・幻想性と級数展開 G 5・3、G 12・11

・幻想占拠の萌芽 G 別1・20

建築におけるポストモダニズム G 6・19

・建築モラトリアム(堀川) G 6・22

・権力の時間把握を転倒するために G 9・6、7|右

G 11・20

憲法14条 G 別1・9

憲法22条 G 9・25

こ・コ

・公園は何の喻か G 10・2

・公園・オープンスペース G 12・20

公職選挙法 G 10・22

拘置所 G 1・9

神戸大学 G 11・26、G 別1・2

神戸地方裁判所 G 1・6、G 6・26

神戸拘置所 G 9・9

高レベル放射性廃棄物 G 12・6

五月三日の会(通信) G 3・10

・国家賠償請求 G 11・20、20|右

乞食巡礼 G 11・11

ゴミ G 6・25

コンピューター G 5・10、G 資・12

さ・サ

- 債権差押命令 G 9・8
- 最高裁判官の国民審査 G 10・24
- 裁判所は裁判所(職員の偽証)を裁けるか G 7・7、G 8・26
- 裁判提訴への提起 G 5・23
- 差し戻し G 3・9
- サバティスタ民族解放軍 G 10・25
- 差別 G 9・33
- サーモビュア(赤外線温度解析装置) G 12・8
- サリン G 別1・3、4、6、8
- 参加 G 2・15
- 山谷労働者福祉会館 G 8・19、G 9・17
- 散乱のエントロピー G 12・22
- 三里塚闘争 G 7・12、G 11・6、G 別1・20
- 三角定規(↓夏休みの宿題)
- し・シ
- 詩 G 8・8、G 9・14、23、G 別1・29
- 時間への攻撃 G 4・9
- 時間論・序 G 11・26
- しぐさ G 7・5
- 地獄へ至る門 G 3・25、G 資・8、8右
- 死者 G 8・18
- 死者の数 G 別1・21
- 自主講座 G 2・7
- 自主ゼミ G 2・9
- 地震波 G 資・23
- 地震とサリンが描く楕円 G 別1・5
- 自然(参照↓天然) G 1・37、G 4・3、7
- 自然科学(参照↓科学) G 7・17
- 死を前にして G 3・23
- 死刑(制度) G 3・9、G 4・8、G 11・29右、G 別1・7
- 住居論からの遠征 G 11・5
- 執行抗告申立書 G 9・8
- 宗教 G 9・23
- 従軍慰安婦 G 7・3、G 8・21、G 10・16

重心(参照↓表現の重心)

- 重力 G 1・28、G 索36、G 資・6
- 手術Ⅱさめたあとの夢 G 8・8
- 瞬間 G 2・17、G 7・7
- 情況への発言 G 9・32
- 上告を棄却する文体の解体は可能か? G 9・5
- 食事メニュー G 8・16、G 資・7
- 助産院 G 9・23
- 資料の位置 G 5・18、G 資・1、31
- 人事院審理 G 1・34、G 5・26、G 9・12
- 真実と虚偽の関係(仮装の本質について) G 別1・23
- 身体のスバゲティー状況 G 8・5右

す・ス

- 数(数式) G 7・15、G 資・16、31
- ストライキ G 1・21
- スピット処理とモアレ G 5・12、G 7・11

せ・セ

- 性 G 4・23、26、G 10・19
- 制圧 G 4・21
- 生活手段 G 2・22
- 世紀末のための反詩 G 3・22
- 制裁 G 3・13
- 世界の作品化から見たオウム G 別1・28
- 全共闘運動 G 1・21、G 10・21、G 11・8、10
- 選挙制度の改革・原論 G 10・22、G 別1・22
- 戦闘概念の衰弱 G 3・5

そ・ソ

- 像 G 2・2
- 相似象学 G 1・37
- 造反教師 G 11・7
- 即時抗告申立書 G 9・10
- 訴訟費用免除申立書 G 9・11
- 外 G 別1・31
- その時 G 12・9

た・タ

タイ語の特性 G 10・17

楡円 G 2・5、G 別 1・5

・第 n 次作品 G 4・27、G 7・2

・大学闘争 G 1・22、G 5・10、G 9・20

・大衆団交 G 2・13

代用監獄 G 1・10

タネの思想からコヤシの思想へ G 11・2

タバコ G 4・16、G 8・11、13

卵裁判 G 2・10 (参照↓批評集 α 篇 1、2)

・単位 G 1・32、12・23

短歌 G 4・14

胆嚢手術 G 8・10

・断筆宣言を断念して断固かき続けよ！ G 9・31

タンポポ G 2・24、G 4・16、G 12・3

ち・チ

地殻変動 G 資・22 右

地下鉄サリン事件 G 別 1・3

・筑豊方言と坑内言葉 G 11・2 右

・宙吊り G 1・20、G 7・3

・超音波検査 G 8・8 右

・註 G 4・30

つ・ツ

・追悼表現としての人間・関係論 G 11・9

罪 G 9・13、G 別 1・8

て・テ

・訂正 G 2・27

手錠 G 11・15、16、G 12・12

テラー級数 G 5・3、5

てんかん G 9・31

・電報の速度 G 5・14

天理教 G 9・21

・天然 (参照↓天然) G 1・37

天皇 G 1・37、G 7・10、G 10・22

天皇制 G 別 1・9

天王寺公園 G 10・2、G 12・20

と・ト

トイレ G 1・10、G 6・15、G 8・14、20 右、

G 10・2、G 11・16、G 12・17

・東京拘置所 G 1・9、G 6・12、14、G 資・14

・東京裁判 G 別 1・9、G 資・5 右

・当事者 G 4・17

・闘争宣言 G 8・19 右

投票箱自主管理 G 2・14

動物実験 G 2・2、G 7・13、G 11・29 右、

G 別 1・8、G 資・15

土地所有制度 G 11・6、G 資・21

・トライボロジー G 11・24

な・ナ

・内部の宇宙 G 8・9 右

・なぜ概念集シリーズを基軸として地震を論じるか

G 12・16

・なぜ裁判に関わるのか G 9・12

・なぜ〈69〉年を基軸にするか G 7・20、G 12・16

・ナターシャさん母子の行方 G 10・16

・ナターシャさん母子の行方と面会についての提案

G 11・15

・ナターシャさんへの判決法廷 G 12・12

・ナターシャさんへの手紙 G 12・13

〈なだれ〉現象 G 5・30 (参照↓オウム以後の

ガケ崩れ)

夏休みの宿題 G 別・1 おまけ、G 資・28

に・ニ

肉食 (メニュー、慣習、文明) G 2・25、G 7・12、

G 11・29 右、G 別 1・8

・肉体と身体に関する断章 G 5・27

・入院中の各テーマの展開 G 8・25

・ニュルンベルク裁判 G 別 1・9

ぬ・ヌ

ね・ネ

・年周視差 G 2・21

の・ノ

ノーベル賞 G 12・19

は・ハ

π (パイ) G 5・5

陪審制度 G 1・7

ハイジャック G 4・10、G 別 1・14、30

・排泄処理 G 8・14、G 12・17 右

破壊活動防止法 G 3・13、G 別 1・9 右

・爆風の現在 G 5・20、G 7・4

波動性力学 G 7・18

・話と生活 G 3・17

・パタン・ランゲージ G 1・23

・発生の時間域 G 3・26、G 7・7

・花なきバラ G 2・24

・歯みがき粉 G 4・15

バリヤー G 1・5

・パリケード G 1・3、29、36、G 6・4、5

G 8・20、G 11・28 右、G 12・2

パリケード的表現 G 1・36

パリ・コンミュン G 1・3、G 4・9、

G 6・4、16、G 8・20 右

ハルマゲドン G 別 1・7、9

阪神大震災 (参照↓六甲大地震) G 12・10、G 資・24

反戦青年委員会 G 11・13

パンツ G 4・24、G 11・16

・反日 G 1・14、G 4・8、G 5・21、

G 7・4、G 11・19、G 別 1・18、G 資・4

・反日への先制的報復裁判への対峙 G 11・18

反日亡国 G 11・19、G 別 1・19

・反ユダヤ論の陥穽… G 11・21

ひ・ヒ

B109教室 G2・7、14、26

東アジア反日武装戦線(↓反日)

・非存在 G1・16

・非対称の性 G4・23

・一人は万人のために、万人は一人のために G8・22

非日 G7・4

秘密調査委員会 G3・18

・批評概念を交換し… G5・7

・批評と反批評 G3・3

・病院と他の空間の比較 G8・4

・表現過程としての医療空間(序文の位相で) G8・1

・表現手段(過程) G2・19、G8・27

・表現としての数式 G7・15、G資・16

・表現における遠心と求心 G5・16

・表現の重心 G9・1

ふ・フ

・フィクション G1・12、G7・2

風鈴 G8・17、G12・7

・不可能性 G1・29

複素数 G4・4、7、G7・16

複素数球面 G7・18

・ふしぎな機縁から出会っている人々へ G10・10

・不条理 G4・11

・再び、公園は何の喩か G10・25

・二つの反日処刑 G4・8、G7・4

舞踏 G12・3、25

フリーエ級数 G5・5

古本市 G2・10

(参照↓時の楔通信第へ2号44ページなど)

・プロジェクト「猪」御中 G11・7

・プロテスト G4・20

・プロナタル・アンチナタル G10・19

・文学 G1・27

へ・へ

・弁護の不可能性 G別1・13

ほ・ホ

・包囲の原ヴィジョンへ G5・29

・法廷 G1・6、G6・8、11、G12・12

・母子サルのゲリラ戦 G7・12、13

ポストモダニズム G6・18

・ボランティア G12・23、G別1・5

ま・マ

間(マ) G 11・28右、G 12・8

摩擦 G 11・24

マジステティック・トゥウエルプ(MJ12) G 3・19

マダラ現象 G 12・8

み・ミ

民事訴訟法64条、71条 G 2・15

む・ム

ムラサキツユクサ G 9・30右

・無力感からの出立 G 2・5、G 7・3

め・メ

・メドユトピア G 8・11、18

・メニユー G 2・25、G 12・3

も・モ

モアレ現象 G 5・12

・申し立ての極限 G 3・7

モダニズム G 6・19

や・ヤ

やから G 9・29

ヤハウエ G 9・33、G 資・18

山口組 G 12・19右の註

ゆ・ユ

UFO G 3・19、G 5・18、G 資・19

ユダヤ(参照↓反ユダヤ論の陥穽)

夢 G 8・9、G 別1・31

・夢肩 G 4・10、G 12・9

よ・ヨ

陽気ぐらし G 9・21

・余事記載 G 4・19

ヨナ G 8・8

ら・ラ

ライフライン G 12・18

・落書き G 1・36

ラセン G 索・35

ラプラス交換 G 4・4

り・リ

留置品 G 3・20

れ・レ

Let it be G 1・30

・連続シンポジウム G 2・11

連合赤軍 G 3・9、G 4・14

ろ・ロ

・老人医療への救急医療 G 8・12

労働者福祉会館(↓山谷労働者福祉会館)

六甲空間 G 3・17、G 5・14

六甲大地震 G 12・10、G 別1・5、30、G 資・24

六対のへく(参照↓く)の字形12個)

六重のへく G 11・26(参照↓へく)

わ・ワ

・「ワードマップ 現代建築」を読んで問い合わせて

下さった読者の方々へ G 9・15

ワープロ G 2・20

・ワープロによる刊行 G 3・27

・へわるいものく概念の交換 G 8・10

凡例

「G1・1」は「概念集1の1ページ」

「G2・3右」は「概念集2の3ページ右（2ページ裏）」

「G別」は「概念集・別冊」

「G索」は「概念集シリーズへの索引と註」

「G資」は「概念集シリーズへの補充資料」

をそれぞれ示す。

冒頭の・印は批評対象として論じる度合の大きいこと、

傍線は関連する表現のコピーを掲載していることを示す。

なお、イニシャルで論じている場合はリストから省略している。

人名

あ・ア

アインシュタイン G 9・28、G 資・18
逢沢明 G 資・12

浅田彰 G 10・21、G 別 1・4 右

・麻原彰晃 G 別 1・10、11 右、12、G 資・29

飛鳥昭雄 G 資・19

・アテルイ(正確にはアトロイ) G 4・8

・安部公房 G 9・27

・安部譲二 G 6・16

アーベル G 5・4

甘粕大尉 G 別 1・14

アマーリエ(・ハイネ) G 11・23

アルキメデス G 4・3

・アレクザンダー(クリストファー)

安藤彦太郎 G 11・10

い・イ

・イエス G 2・20

・五十嵐良雄 G 5・23、G 11・8

・池内了 G 9・28 右

・池田浩士 G 3・3、G 11・10

・いしいひさいち G 別・1 おまけ、G 資・28 右

石川一雄 G 9・27

石山修武 G 6・21

磯崎新 G 6・18、G 9・19

市川浩 G 5・28

市川定夫 G 9・30 右

井上嘉浩 G 資・29

う・ウ

・上原利彦 G 11・4、5 右

ヴェンチューリ G 6・20

・ウォーラーステイン G 10・25

内田雄造 G 11・4 右

・宇野多美恵 G 9・29 右

浦部鎮太郎 G 6・21

上野昂志 G 資・2

え・エ

エイゼンシュタイン G 8・22

江口秋子 G 6・11

エゼキエル G 7・10

エディプス G 8・24

・江藤淳 G 5・7、G 7・15、G 10・21 右

エンゲルス G 4・26

・遠藤誠 G 別 1・13、15

エンツェンスベルガー G 12・24

お・オ

オイラー G 4・4

・大江健三郎 G 3・23、G 9・33 右、G 12・19

岡邦之 G 9・9 右

大熊記者 G 9・30 右

・太田竜 G 7・13、G 9・24、G 10・23、G 資・21

・大武礼一郎 G 別 1・13 右

・大橋正雄 G 7・18

・大森勝久 G 4・8、G 7・5 右、6、6 右

G 別 1・18、19

・小川正巳 G 2・8

・荻原 勝 G 2・11

・大島警備員 G 7・7

・小野修一 G 6・16

折原浩 G 11・10

扇貞雄 G 資・13

か・カ

・戒能信生 G7・10

・笠井潔 G4・26、G6・7

笠原れい子 G9・15、16右

・加藤三郎 G5・8、G7・4、G9・24右

・加藤典洋 G5・8、G7・4

・ガードナー G9・30

金本浩一 G資・4

・カミュ G4・11

ガモフ G5・28、G資・18

・金子みちよ G4・14、G資・11

・鴨長明 G12・10右

・柄谷行人 G3・5、G10・21

・唐牛健太郎 G11・3右

・河村行(こう) G4・12

・河村隆二 G4・11、G9・20、G11・8、10

・菅孝行 G5・28

・蒲原重雄 G1・9、G資・14

・恒武天皇 G4・8

き・キ

・菊竹清訓 G6・21、23

・北川 透 G3・3、G6・30

・北村透谷 G5・8

・ギーディオン G6・19 衣笠技官 G12・4

・ギブスン(ウイリアム) G6・25

・切通理作 G別1・25

キルケゴール G12・10 ギルバート G資・18

金日成 G8・22

・木山暢郎 G9・8右、10、10右

北川源太郎 (↓ゲンダーヌ)

く・ク

空海 G12・7、G別1・26

栗本慎一郎 G4・24、G7・2

クライスト G12・10

・黒川芳正 G1・21、G4・8、G6・16

クローン G11・24

クローチェ G資・15

け・ケ

・ゲーテ G3・1

・ゲバラ G5・11

ケプラー G1・28、G4・4、

ゲンダーヌ G資・13

こ・コ

小池一雄 G12・21右

コーシー G5・4

小島剛夕 G12・21右

五島勉 G7・11右

・小林忠太郎 G5・23、G9・19、

G11・8、10

小松左京 G8・13

ゴールドバッハ G4・4

・ゴルバチョフ G5・9

コルピュジェ G6・22

・近藤達男 G4・21、22

コンノケンイチ G資・18

さ・サ

・蔡国強 (中国語の発音は「サイ・クオ・チャン」に近い。) G 5・22

最首悟 G 11・10

坂上田村麻呂 G 4・8

坂口安吾 G 1・11

・坂口弘 G 4・14、G 11・19、G 資・10

・坂本守信 G 2・11、G 11・8、11、12、12右

坂本弁護士 (と家族) G 別 1・23

佐々木幹郎 G 1・18、G 3・6、G 4・15、

G 5・19

佐藤愛子 G 資・17

佐藤信行 G 11・8

サルトル G 12・19

沢崎悦子 G 3・9

桜庭章司 G 資・9

し・シ

塩川喜信 G 11・10 シアトル G 資・15

信貴辰喜 G 11・10

ジード (シャルル・) G 8・22

・島尾敏雄 G 4・10

清水一行 G 3・10

清水早子 G 10・8右

清水良典 G 9・33右

シャクシャイン G 4・9

・シュティーフエル G 4・3

シュモラー G 8・22

ジュンクス (C・) G 6・18、22

ジョスト (ピーター・) G 11・24

ショーペンハウエル G 2・24

シュバイツァー G 資・15

す・ス

・菅谷規矩雄 G 1・27、G 3・10、G 4・2、

G 5・19、27、G 7・5、G 9・14、

G 9・20、G 11・8、G 12・7

鈴木その G 9・4

スターリン G 11・21

せ・セ

関江夏央 G 8・13

芹沢茂 G 9・21

・芹沢俊介 G 別 1・12

そ・ソ

ソロモン G 8・13

た・夕

- ・戴文士 G10・4
- ・大道寺将司 G11・19、G12・24
- ・高尾和宜 G1・12、G3・10、G4・27
G資・22
- 高木仁三郎 G11・10
- ・高野雅夫 G11・2
- 高橋和己 G11・8
- ・高橋俊和 G9・15、16右
- 滝沢克己 G11・8
- 滝田修(竹本信弘) G9・7、G11・8
- ・武谷三男 G6・24
- 高沢皓史 G1・21
- 高橋忠雄 G8・2
- ・高橋源一郎 G6・16、G7・5
- 高本茂 G6・11
- 竹内洋子 G5・23
- ・竹中千恵子 G4・13
- ・竹田青嗣 G5・7
- 田坂定孝 G8・2
- ・田中耕太郎 G3・13
- 田中了 G資・13
- 田辺平学 G資・14
- ・谷川雁 G4・15、G7・13、14右、G別1・2
- ・田村隆一 G別1・29、29右
- ・ダンテ G3・25、G4・26
- ・団藤重光 G1・6

ち・チ

つ・ツ

- 土谷公献 G資・29
- 土谷正実 G資・29
- ・筒井康隆 G1・12、G3・22、G5・8、G7・2、
G9・31、33右、G12・24
- 坪郷勉 G資・16
- て・テ
- ディオティーマ G8・24
- ・ディック(フィリップ・K・) G6・2
- ・ディピートロ G5・12
- ・デカルト G7・16、19、G8・2右、G資・15
- ・手塚治虫 G3・2
- ・デュマ(アレクサンドル・) G8・22
- テレーゼ(・ハイネ) G11・23
- と・ト
- 徳永省三 G資・25
- 戸坂潤 G6・24
- 友貞安太郎 G8・24右
- ・友田清司 G10・27右、G資・24
- 友田稔 G8・9右
- ドイル(コナン・) G5・14
- ドゥルーズ G素・36
- ドストエフスキー G5・14、G9・28
- トフラール G別1・17右
- とみ新蔵 G9・21、22右、23右

な・ナ

- 中井久夫 G 9・21
- 中岡哲郎 G 6・24
- 中沢新一 G 別1・4、4右
- 中島みゆき G 10・9、G 別1・11
- 永里繁行 G 資・24、26、27
- 永田洋子 G 11・19
- 仲村実 G 11・13
- 中山みき G 9・21、23
- 永山則夫 G 3・9
- ナターシャ G 10・16、18、27、G 11・15、17、
G 12・12、15、23
- 桧崎阜月 G 1・37、G 9・24

に・ニ

- 新島淳良 G 11・10
- 西野皓三 G 5・28
- ニーチェ G 6・22
- ニュートン G 1・、G 4・5
- 庭瀬康二 G 8・11

ね・ネ

- ネーピア G 4・4
- 根本健司 G 7・8、G 9・4右

の・ノ

- ノイマン(フォン・) G 5・10、G 資・12
- 野村修 G 12・24

は・ハ

- ハイネ(ハインリッヒ・) G 1・2、G 3・2、
G 8・13、G 9・30、G 11・23
- 萩尾望都 G 12・11右
- 芭蕉 G 12・5
- パスカル G 5・4、10
- 蓮見重彦 G 3・5
- 長谷川堯 G 1・11
- 花崎皋平 G 11・10
- 埴谷雄高 G 4・22、G 資・2
- 浜本正文 G 6・16
- 早川紀代秀 G 別1・16、17、G 資・29

ひ・ヒ

- 久住幸治 G 10・23
- ヒットラー G 11・21、G 別1・14
- ビートたけし G 12・19右
- ビートルズ G 1・31
- ビュルギ G 4・4
- 広瀬隆 G 12・4

ふ・フ

- ファース(H・G・) G 4・24
- フーコー(ミシェル) G 1・9、G 6・12、G 資・3
- 藤本敏夫(元全学連委員長) G 10・25
- 藤本敏夫(労働者) G 10・4右、G 11・2、9、
G 12・10右、G 資・24
- 藤原定家 G 2・6
- 富士信夫 G 資・5

ま・マ

前田和男 G11・7右

横文彦 G6・21

・益永(旧姓・片岡)利明 G4・8、G11・19、

G12・24

益永みゆき G7・6

・升沢哲雄 G6・16

増淵利行 G1・11、G6・13

・松下まや G5・19

・松下未字 G3・23、G4・10、G9・14右、33、

G12・21、(G別1・2)

・松下竜一 G3・10、G4・27

・松永安光 G6・22

・マルクス G1・28、G3・25、G11・23、G資・6

丸山真男 G6・18

マン(トーマス) G3・2

み・ミ

三島浩司 G10・25

満田正 G5・23

・南方熊楠 G7・14

・宮内康 G5・23、27、G8・19右、G9・17、

G11・8

・宮内みはる G9・17

・宮崎勤 G4・26

宮沢賢治 G7・13

む・ム

め・メ

・メフィストフェレス G3・1

メルカトル G4・4

も・モ

モーセ G7・10

望月孝規 G8・2右

森鷗外 G資・30、31

森川佳津子 G4・19、G10・8右

・森下敬一 G10・8右

森安少年 G10・27右

・モレ(正確にはモライ) G4・8

・モーレナー G5・12

・モンテーニュ G2・27

や・ヤ

矢追純一 G 3・19、G 5・2右

八島英雄 G 9・21、24右

矢部高男 G 9・9右

山浦元 G 6・26、30、G 9・20、G 12・4、5

山崎隆敏 G 12・5

山田孝二 G 7・7

山本聖 G 11・11右

山本作兵衛 G 11・2

山本光代 G 4・25、G 11・8

山本義隆 G 1・28

ゆ・ユ

湯浅光朝 G 2・8

湯浅敏史 G 11・10

ユーゴー G 資・15

よ・ヨ

横山弁護士 G 別1・13

吉田芳和 G 9・30右

吉本隆明 G 3・22、23、G 4・26、G 5・8、

13、27、G 6・26、G 7・15、16、19、

G 9・20、26、G 10・21右、G 別1・12、

G 資・4

ら・ラ

ライヒ(ヴァイルヘルム) G 9・28

ライブニッツ G 4・5

ラブレール G 4・29

り・リ

る・ル

ルソー G 別1・17

れ・レ

レッシング

レーニン

レム(スタニスラフ)

ロダン

ロベスピエール

若山宏

ワトソン(L)

鲁迅

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

ワトソン(L)

凡例

「G1・1」は「概念集1の1ページ」

「G2・3右」は「概念集2の3ページ右（2ページ裏）」

「G別」は「概念集・別冊」

「G索」は「概念集シリーズへの索引と註」

「G資」は「概念集シリーズへの補充資料」
をそれぞれ示す。

「」は著書の題名、「」は作品ないし論文の題名、へへは規定不可能であることを示す。定期刊行物はカッコなし。

転載ないし言及した雑誌・パンフレットの

タ名称および作品・論文の題名

あ・ア

「赤い蔭」(安部公房) G 9・27

アサヒグラフ 69年7月18日号 G 6・5右

- 朝日新聞 92年1月10日 (子ザル、麻酔銃で死亡) G 7・12右
- 朝日新聞 92年1月27日 (母ザルが3人を襲う) G 7・12右
- 朝日新聞 92年1月27日 (文芸時評・高橋源一郎) G 7・5右
- 朝日新聞 92年2月6日 (前記の記事についてのおわび) G 7・6右
- 朝日新聞 93年7月19日 (参議院選挙の投票率) G 10・24右
- 朝日新聞 93年9月2日 (疑似科学批判・池内了) G 9・28右
- 朝日新聞 93年9月27日 (文芸時評・大江健三郎) G 9・33右
- 朝日新聞 93年10月7日 (監獄の食事) G 資・7
- 朝日新聞 94年4月29日 (在日外国人の選挙権、アフリカの全人種選挙) G 資・20
- 朝日新聞 94年7月16日 (大森被告の死刑確定) G 11・18右
- 朝日新聞 94年9月20日 (地価の変化グラフ) G 11・6右
- 朝日新聞 94年11月2日・夕刊 (アメリカのホームレス) G 11・4右
- 朝日新聞 94年12月2日 (1年ぶり死刑執行) G 11・29右
- 朝日新聞 95年1月18日 (チェチェン内戦) G 12・23右
- 朝日新聞 95年1月23日 (地震波のグラフ) G 資・23
- 朝日新聞 95年1月24日 (避難所トイレに知恵) G 12・17右
- 朝日新聞 95年2月2日 (活断層と被害の関係) G 12・8
- 朝日新聞 95年2月7日 (崩れた巨岩) G 資・22右 ↑2月1日の記事と併合
- 朝日新聞 95年2月15日・夕刊 (サーモビューアで見た神戸) G 12・8右
- 朝日新聞 95年2月20日 (地殻変動の宇宙衛星画像) G 資・23
- 朝日新聞 95年2月21日 (上下動の地震波グラフ) G 12・11
- 朝日新聞 95年2月23日 (復旧工事で80人死傷) G 別1・2右
- 朝日新聞 95年3月1日 (タイの女性に懲役8年の判決) G 12・12右
- 朝日新聞 95年3月2日 (被災地視察記・ポードリヤール) G 12・7
- 朝日新聞 95年3月8日・夕刊 (公園テント村はスパー住居) G 12・20
- 朝日新聞 95年3月9日 (在日外国人の選挙権) G 資・24右
- 朝日新聞 95年4月1日 (震災の死者五千五百人に) G 別1・2右
- 朝日新聞 95年4月9日 (感謝メモ残し被災女性水死) G 別1・2右
- 朝日新聞 95年4月20日 (となりのやまだ君) G 別1・8右
- 朝日新聞 95年5月4日 (となりのやまだ君) G 別1・8右

- 朝日新聞 95年6月6日 (95年1月～3月の経過) G別1・3右
- 朝日新聞 95年6月27日 (地下鉄に「ソンシー」のテープ) G別1・20右
- 朝日新聞 95年8月21日 (オウム事件への正論・切通理作) G別1・25右
- 朝日新聞 95年8月23日 (マンガ・いしいひさいち) G別1・おまけ、G資・28右
- 朝日新聞 95年8月30日 (ウオッチ時評・芹沢俊介) G別1・12
- 朝日新聞 95年9月9日 (オウムの被告たちの教祖観) G別1・11右
- 朝日新聞 95年9月22日～23日 (天声人語) G別1・21右
- 「アドレセンスの証明」(菅谷規矩雄) G7・5
- 「新しい人よ目ざめよ」(大江健三郎) G3・23
- A・R・P通信「WARRIOR」(93・12・15) G10・5
- あんかるわ 81号(北川透・主客対談) G6・30

い・イ

- 「意見書―『大地の豚』からあなたへ」(加藤三郎) G7・4
- 「異国」(中島みゆき) G10・9
- 「石の枕」(高尾和宜) G3・10
- 「痛みの話」(佐藤愛子他6名) G資・17
- 伊豆長八美術館 (建築・石山修武) G6・21
- 「いま 吉本隆明25時」(吉本隆明) G資・4
- 「意味と生命」(栗本慎一郎) G7・2
- 「隕石クレーター」(点火作品・蔡国強) G5・22

う・ウ

- 「国際居住年をめぐるって」(内田雄造) G11・4右
- 「ヴァンパイヤー戦争」(笠井潔) G4・26、G9・9
- 「裏返しにした宇宙」(ガモフ) G5・28
- 噂の真相 93年10月号(笑犬楼よりの眺望―筒井康隆) G9・31右

え・エ

- 「永久欠番」(中島みゆき) G別1・11
- 「笑顔を忘れず―柳本解雇撤回闘争の記録」(柳本闘争支援共闘会議) G11・13～14右
- 「エセー」(モンテーニュ) G2・28
- 「怨恨のユートピア」(宮内康) G9・17、20、G10・26

お・オ

- 「オウム真理教とサリン疑惑について」(永里繁行) G資・26～27

- 『おふでさき』(中山みき) G 9・21
- 『おふでさき通釈』(芹沢茂) G 9・21
- ・「お詫びと訂正」(加藤典洋・思想の科学社) G 7・6右

か・カ

- 革労協機関紙・解放 94年2月1日号(サパテイスタ民族解放軍の宣言) G 10・26右
- 革労協機関紙・解放 95年6月15日号(新東京国際空港ビル爆破闘争) G 別1・20
- 概念集2 (技術論・山浦) G 12・5
- 概念集3 (地獄を描く方法) G 索・36、G 資・8右
- 概念集4 (G 4への註) G 索・35
- 概念集5 (包囲の原ヴィジョン) G 別1・27
- 概念集8 (排泄論) G 12・17
- 概念集8 (あとがき) G 別1・31右
- 概念集9 (序文) G 索・35
- 『華蓋集』(鲁迅) G 2・24
- 註「華蓋」は中国語の発音としては「ホアカイ」に近いので「ホ」の項にも入れる。
- 「価格査定書」(矢部高男) G 9・9右
- 「かくれんぼ」(童謡) G 資・11
- 『火星へ人面』像の謎 (R・C・ホーグランド) G 5・12右
- 「学校なき浄土」(谷川雁) G 7・14右
- 「河童が覗いたニッポン」(妹尾河童) G 6・13―ただし、第1刷のみ。
- 「過程」(島尾敏雄) G 4・10
- 「加藤三郎―小さな光」(加藤典洋) G 7・4
- 甲山支援通信 第231号 G 3・10
- 『カーマストラ』 G 4・26
- 「唐牛健太郎と私」(藤本敏夫) G 11・3右
- 「監獄におけるワープロ使用の不可能性」(桜庭章司) G 資・9
- 「寒山拾得縁起」(森鷗外) G 資・30、30右、31
- 「ガン」消去法」(森下敬一) G 8・11
- 「感受性について」(宇野多美恵) G 9・29右
- 「完全なる真空」(スタニスワム・レム) G 4・29
- 「ガン病棟のカルテ」(庭瀬康二) G 8・11右

き・キ

- 【記憶の闇】(松下竜一) G 3・10
- 【技術を考える13章】(中岡哲郎) G 6・24
- 【奇人変人通りからの報告】(高尾和宜) G 資・22
- 【奇妙な論理】(M・ガードナー) G 9・30
- 救援 94年1月10日号(タイ女性と下館事件) G 10・16右
- 救援 94年10月10日号(死刑執行の中止要求) G 11・29右
- 【急流】(筒井康隆) G 3・22
- 京都大学教養部履修案内 G 2・9
- きょうどう (コピーこうべ機関紙) G 8・24右
- 【協同組合 あんな話 こんな話】 G 8・22右
- 共同通信提供 93年9月下旬 文芸時評(清水良典) G 9・33右
- 【近代建築の失敗】(P・ブレイク) G 6・22
- 【近代日本の批評】(柄谷行人編) G 10・21

く・ク

- 【空間・時間・建築】(ギーデオン) G 6・19
- 倉敷市民会館 (建築・浦部鎮太郎) G 6・21

け・ケ

- 【契約書】(日昭住宅) G 11・4
- 【劇画 中山みき物語】(とみ新蔵) G 9・22右
- 【ケプラー】(ヘルダーリン) G 1・28
- 【原初火球】(点火作品・蔡国強) G 5・22
- 【ゲンダーヌ ある北方少数民族のドラマ】(田中了・ゲンダーヌ) G 資・12
- 【建築における多様性と対立性】(ヴェンチュリー) G 6・20
- 【建築のパフォーマンス】(磯崎新編著) G 6・18

こ・コ

- 抗告却下決定(神戸地裁) G 9・10右
- 広辞苑(「制圧」) G 4・21〜22
- 高等学校国語I(筒井健康隆「無人警察」) G 9・32右
- 神戸拘置所長から松下あての手紙 G 9・9右
- 神戸新聞 70年5月15日(潜伏中の松下の警察あて挑戦状) G 10・8右

- 神戸新聞 73年9月10日(愛信学園の生徒脱走事件) G10・27
- 神戸大学教養部広報 第22号 G2・7
- 神戸大学教養部広報 第30号 G8・21
- 神戸大学闘争史 G1・20、G2・1
- 五月三日の会通信 第3号 G5・14
- 五月三日の会通信 第7号 G2・14
- 五月三日の会通信 第25号 G2・22
- 国語辞典(講談社)「たんじゅう」 G8・2右
- 「国際居住年をめぐる」(内田雄造) G11・4右
- 「告知する歌」(吉本隆明) G3・22
- 「小菅刑務所を観て」(田辺平学) G資・14
- 「5・23大阪大闘争裁判表現集」 G6・11
- 「子連れ狼」(小池一雄・小島剛夕) G12・21右
- 「コンピューター社会が崩壊する日」(逢沢明) G資・12

さ・サ

- 債権差押命令 G9・8右
- 「最高裁判所刑事判例集」 G3・12、14
- 「斉藤茂吉―赤光」について(吉本隆明) G3・23
- 「坂口弘 歌稿」(坂口弘) G資・10
- 「細雪」(谷崎潤一郎) G10・27
- SAPIO 95年3月9日号(広瀬隆) G12・4
- 「差別」(筒井康隆) G9・33
- 「サマー・アポカリプス」(笠井潔) G6・7
- 「さようならギャングたち」(高橋源一郎) G6・16
- 「三銃士」(デュマ) G8・22
- 「三段階論」(武谷三男) G6・24

し・シ

- 「地獄の門」(彫刻・ロダン) G3・25、G資・8、G索・37
- 「思考の話」(吉本隆明) G7・19右
- 「静かなる戦争のための沈黙の兵器」(筆者不明・太田竜訳) G11・22右
- 「執筆依頼状」(プロジェクト「猪」事務局) G11・7右
- 「資本論」(マルクス) G11・23
- 「市民ユートピアの原理」(早川紀代秀) G別1・17

- 『社会契約論』(ルソー) G別1・17
- JAVA(動物実験反対リーフレット) G資・15
- 『じゃんけんぼん』(童謡) G資・11
- 週刊新潮 91年6月20日号(留置場はホテル並み) G6・14
- 週刊新潮 91年6月29日号(タバコはアルツハイマー病の予防になる) G8・13右
- 『重力と力学的世界』(山本義隆) G2・28
- 『宗教と革命』(太田竜) G9・24
- 『首都あるいは関係』(菅谷規矩雄) G5・27
- 『小学生に遠く及ばない東大総長の認識水準』(山浦元) G12・5
- 諸君 95年8月号(浅田彰と中沢新一の対談) G別1・4右
- 『笑犬楼よりの眺望』(筒井康隆) G9・31右
- 『声字実相義』(空海) G12・7
- 『象徴交換と死』(ボードリヤール) G10・20右
- 『情念論』(デカルト) G8・2右
- 『ジョン・レノン対火星』(高橋源一郎) G6・16
- 『神曲』(ダンテ) G3・25、G4・26
- 『新公害原論―遺伝学的視点から』(市川定夫) G9・30
- 進修館 (建築・菊竹清訓) G6・21
- 新潮 91年4月号(筒井康隆と中上健次の対談) G5・8
- 新潮 95年4月号(筒井康隆) G12・24右
- 新潮45 95年3月(ビートたけし) G12・19右
- 『審判』(吉本隆明) G9・26
- 人民戦線の旗の下に! 95年8月25日号(オウム問題討論) G別1・13右
- 95年9月25日号(遠藤誠) G別1・15

す・ス

- 〈菅谷規矩雄追悼集〉(松下) G5・19
- 『スター・レッド』(萩尾望都) G12・11右
- スパイラル (建築・楳文彦) G6・21
- 『スーパーネイチャー』(L・ワトスン) G5・13
- すばる 89年12月号(吉本隆明と中上健次の対談) G3・23

せ・セ

- 『世紀転位の思想』(関弘野) G10・19
- 『精神現象の数学』(吉本隆明) G7・19右

〈正本ドイツ語の本〉 (自主ゼミ実行委員会) G 2・10、G 7・17
 『世界大百科事典』 (平凡社) 「たんせき」 G 8・2右
 『世界大百科事典』 (平凡社) 「法廷」 G 1・6
 「絶望から苛酷へ」 (吉本隆明) G 5・27
 「せまりくる足音」 (小松左京) G 8・13
 O (ゼロ) 通信 95年8月31日号 (大森勝久) G 別1・18右、19右
 「戦艦ポチョムキン」 (エイゼンシュタイン) G 8・22
 『全共闘 グラフティ』 (高沢皓史) G 1・21、G 6・4右
 『全共闘白書』 (プロジェクト「猪」) G 11・8右
 選挙公報 (95年7月) G 別1・22
 「戦闘の光景」 (蓮見重彦) G 3・23
 『戦慄のMARS計画』 (矢追純一) G 3・19、G 5・12右

そ・ソ

『捜査一課長』 (清水一行) G 3・10
 ・ 相似象 第11号 別冊 (宇野多美恵) G 9・29右
 『俗物図鑑』 (筒井康隆) G 5・8
 狙撃兵 1別冊資料・『全共闘運動』論1 (黒川芳正) G 1・21
 「『尊師』のニヒリズム」 (中沢新一) G 別1・4

た・タ

「〈第n論文〉をめぐる諸註」 (松下) G 5・8
 『第12番惑星ヤハウエには生物が存在する!』 (飛鳥昭雄) G 資・19
 〈大学闘争…に関する批評資料集〉 (南山大学気付仮装被告団) G 1・21
 同前・序II断片的ヴィジョン (13) G 11・28右
 「大学の中の大学」 (小川正巳) G 2・10
 『代謝建築論』 (菊竹清訓) G 6・24
 『対数級数論』 (メルカトル) G 4・4
 『誰がために鐘は鳴る』 (ヘミングウェイ) G 12・23
 『探究』 (柄谷行人) G 3・5
 『断末魔醉狂地獄』 (筒井康隆) G 8・13
 『断末魔の地価』 (遠藤留治) G 11・6右

ち・チ

『筑豊炭坑絵巻』 (山本作兵衛) G 11・2

時の楔通信 第へ14へ号32ページ(松下) G11・11右
時の楔通信 第へ15へ号22ページ(松下) G3・14
時の楔へへ語…に関する資料集 8ページ(松下) G11・2
時の楔へのからの通信(松下) G素・36
『ドキュメント 東京拘置所』(増淵利行) G1・11、G6・14右

な・ナ

『中山みき物語』(とみ新蔵) G9・22右、23右
『中山みき研究ノート』(八島英雄) G9・21
ナターシャさん母子を見守る会 通信第3号(93年4月) G10・18右
第7号(94年9月) G11・15右

に・ニ

『にぎやかな時代』(筒井康隆) G9・33
日経アーキテクチュア 88年4月4日号(最高裁の内部) G6・8右、9右
にじと健康(尼崎医療生協機関紙) 92年7月1日号 G8・24右
同前 92年9月1日号 G8・10右
『虹の彼方にーオーバー・ザ・レインボー』(高橋源一郎) G6・16
『日本原住民史序説』(太田竜) G11・23右
『日本原住民と天皇制』(太田竜) G資・21
日本原子力学会雑誌 94年No・1(有馬朗人) G12・6右
『日本文化私観』(坂口安吾) G1・11
『日弁連会長あての手紙』(松下) G資・29

ぬ・ヌ

ね・ネ
『ネオ・ファウスト』(手塚治虫) G3・2

の・ノ

は・ハ

『ハイ・イメージ論』(吉本隆明) G5・13
『ハイネ「北海」における詩と散文の相関性』(松下) G9・30
発言集 1(松下) G1・18、22

- 発言集 2 (松下) G 1・19
 「箱男」(安部公房) G 9・27
 「花なきバラ」(魯迅) G 2・24
 「バリエードについて」(上野昂志) G 資・2
 反核燃裁判関東甲信越だより「げんこくだん」第37号(山浦元) G 12・5
 「判決」(被告人・根本健司) G 9・4右

ひ・ヒ

- ひかりだより 95年2月号(震災アンケート) G 12・7右
 響き(その10) 95年10月号(友田清司) G 資・24
 「悲喜劇・一九三十年代の建築と文化」(同時代建築研究会) G 9・17
 「ビジテリアン大祭」(宮沢賢治) G 7・13
 「ヒューペーリオン」(ヘルダーリン) G 8・23
 表現集 1 G 1・2、22
 表現集 2 G 1・2、22、G 2・7
 批評集 α 篇 1 G 1・8
 批評集 α 篇 2 G 2・1、G 5・19
 批評集 β 篇 1 G 2・8
 批評集 γ 篇 1 G 1・18
 ひょうご不当ガサ国賠ニュース No・5、6 G 9・6右、7右
 「標的者」(埴谷雄高) G 4・22
 「ピンチランナー調書」(大江健三郎) G 3・24

ふ・フ

- 「ファウスト」(ゲーテ) G 3・1
 「風景を撃て」(宮内康) G 9・17
 「福井のイヌワシと原発」(山崎隆敏) G 12・6右
 「複素数と4元数」(坪郷勉) G 索・16
 「不条理」(カミュ) G 4・11
 「不条理」(河村隆二) G 4・11、12
 藤沢体育館 (建築・榎文彦) G 6・21
 藤本敏夫氏から松下への手紙 G 12・10右
 藤本敏夫氏の生きた軌跡 G 11・3・3右、9
 物理学辞典(エントロピー) G 12・22右
 「フランチ・カフカの作品における希望と不条理」(カミュ) G 4・11
 「文学部唯野教授」(筒井康隆) G 7・2

文芸88年11月号(江藤・吉本対談) G7・15
文芸90年秋期号(道浦母都子) G4・14
文芸93年11月号(筒井康隆) G9・31、33

へ・へ

『塀の中の懲りない面々』(安部譲二) G6・16
『辺境最深部に向って退却せよ!』(太田竜) G11・22
『変事』(島尾敏雄) G12・9

ほ・ホ

『華蓋集』(鲁迅) G2・24 註1華蓋は中国語の発音としては「ホアカイ」に近い。
〈包囲〉(松下) G5・29、G別1・27
『亡国日本の悲しみ』(麻原彰晃) G別1・19
『方丈記』(鴨長明) G12・10右
『ポストモダニズムの建築言語』(C・ジェンクス) G6・18
保存会だより 93年9月10日号 G9・23右
北海道新聞(94年7月16日) G11・19右
ほんあづま 78年4月号 G9・24右

ま・マ

毎日新聞 69年7月13日(ガケに宙吊りになった学生) G7・3右
毎日新聞 91年4月17日(ゴルバチョフ来日時の演説) G5・9
毎日新聞 91年6月22日(喫煙がアルツハイマー抑制) G8・13右
毎日新聞 92年2月28日(母ザルによる被害) G7・13右
毎日新聞 94年1月20日(1968年を巡る京都の集会) G10・25右
毎日新聞 95年1月18日(チェチェン内戦) G12・23右
毎日新聞 95年2月9日・夕刊(藤本義一) G12・7
毎日新聞 95年3月1日(タイの女性に懲役8年の判決) G12・8
『マタイによる福音書』 G5・28
『幻の古代帝国 アスカ』(五島勉) G7・11右

み・ミ

『見過ごせぬ疑似科学出版』(池内了) G9・28右

む・ム

ム1 79年11月創刊号(ブラックホールのイラスト) G8・9右

ムー 93年10月号(ヤハウエの紹介) G 9・33

むぐんふぁ文庫①(小野修一・服役体験記) G 6・16

「無人警察」(筒井康隆) G 9・32右

「村の家」(中野重治) G 9・32

め・メ

も・モ

「モナリザ・オーヴァドライブ」(ウィリアム・ギブスン) G 6・25

・「森安君を追い詰めたもの」(友田清司) G 10・27右

や・ヤ

「やっていない俺を目撃できるか!」(単行本81年6月刊行) G 11・18右

やっていない俺を目撃できるか! 76号(94年9月) G 11・19右

やっていない俺を目撃できるか! 77号(94年9月) G 11・19右

「やっていない俺を『確定』できるか!」(益永みゆき) G 7・6

ゆ・ユ

「夢屑」(島尾敏雄) G 4・10

・「ユダヤの日本占領計画」(太田竜) G 11・23右

・「ユダヤフリーメーソンの大陰謀」(太田竜) G 11・21右

「UFO衝撃の未来図/UFOはこうして飛んでいる!」(コンノケンイチ) G 資・18

よ・ヨ

「よい病院とはなにか」(関江夏央) G 8・13

「吉本隆明批判Ⅰー現代科学技術の権力性を感知しえぬ『思想家』とは何か」および

「吉本隆明批判Ⅱー権力と密通した大衆蔑視思想」(山浦元) G 6・26〜29

「よだかの星」(宮沢賢治) G 7・13

読売新聞 70年5月19日(神戸大学構内で松下の逮捕) G 10・8右

・「四千の日と夜」(田村隆二) G 別1・29

ら・ラ

「ラスベガス」(ヴェンチュエリ) G 6・20

れ・レ

「冷戦から内戦へ」(エンツェンスベルガー) G 12・24

ろ・ロ

〈六甲〉 G 2・29、G 4・29、G 12・22、G 別1・1、24右、28右、G 索・36

わ・ワ

「私の見た東京裁判」(富士信夫) G 資・5

・「私はE・T・ー天神と会うためのプロジェクト」(点火作品・蔡国強) G 5・22

・「ワードマップ 現代建築」(同時代建築研究会) G 1・1、G 9・15

凡例

- 「G1・1」は「概念集1の1ページ」
「G2・3右」は「概念集2の3ページ右（2ページ裏）」
「G別」は「概念集・別冊」
「G索」は「概念集シリーズへの索引と註」
「G資」は「概念集シリーズへの補充資料」
をそれぞれ示す。

刊行委作成の写真・図リスト（掲載分）

- G4・1、6 指数・対数・積分（作図）
G6・10、10右 神戸地方裁判所第21号法廷（写真）
12右、13右 東京拘置所（写真）
G8・5右 医療におけるスパゲティ状況（作図）
8右 超音波検査における内部の宇宙（写真）
9右 造影剤撮影による内部の宇宙（写真）
G10・6右、7右、9 河川敷の生活（写真）
G11・25 渦動曲線（作図）
26 神戸大学松下研究室（写真）
G別1・5右 二つの焦点が作り出す楕円テーマ（作図）
6右 サリン分子式（作図）

各符号の訂正（補充）

- G 1・2-1 aの2行目 「全表現の偏差を対象化しうるものを選び」 ↓ 「各表現の特性が情的に帯びている偏差を対象化しうるものを選び」
- G 1・22 「（一）公判」などで使用する（一）などの関連記号はへゝの項目で統一的に論じている。
- G 1・23 右から15行目 「私」の前に「…」を入れる。
- G 2・10 dの項 2、3行目 「ドイツ語中央室」 ↓ 「ドイツ語印刷室」
- G 2・19 左から7行目 「火炎ビンヤ」 ↓ 「火炎ビン等」
- ②_ト 2行目 「原則」 ↓ 「前提」（2カ所）
- ②_ト 左から6行目 「前提」 ↓ 「原則」
- G 3・1 左から5行目 「時間と格闘しつつ表現を含む行為を強いる力」 ↓ 「時間と格闘しつつ行為を含む表現を強いる力」
- G 3・1 左から8行目 「契機として」の次に「メフィストフェレスの言葉を」を入れる。
- G 3・3 ③の1行目 「私の〈作品〉である批評集」 ↓ 「私の〈作品〉でもあるγ系批評集」 同2行目 「…」の次に「。」を加える。
- G 3・16 左から2行目 「感覚の像を対象化しはじめて」 ↓ 「感覚の像との関連で対象化しはじめて」
- G 3・20 右から①、10、12行目 「ドイツ語中央室」 ↓ 「ドイツ語印刷室」
- G 3・23 左から15行目 「かつて」 ↓ 「かつて」
- G 3・27 左から5、6行目 「手書きでおこなう。」 ↓ 「手書きで作成する。」
- G 4・17 左から6行目 「していると」の次に「思い込むと」を加える。
- G 4・19 タイトルの「余字記載」 ↓ 「余事記載」
左から10行目 「概念集1」 ↓ 「概念集2」
- G 4・24 「A」は全て「A」とする。
- G 4・26 10行目 「非対称領域」の次に「の対象化」を加える。
左から

G 5・2 左から7行目 「明確にえられる」↓「明確に得られる」

G 5・8 右から8行目 「『第n論文への諸註』」↓「『第n論文』をめぐる諸註」

G 5・8 右から10行目 「現れる」↓「現われる」

G 5・10 左から5行目 「行列式」↑「行列」(訂正というより註であるが、関係を示す不定形を「行列」、計算を具体化する定形を「行列式」という。)

G 5・12 右から9行目 「12ページ」↓「3ページ」

G 5・19 右から18行目 「へ」語の次に「…」を入れる。

G 6・8 右から5行目 「証言集を読まないか、あるいは読んだために一層怖ろしくなったのか」↓「証言集を読まないのか、あるいは読んだために一層怖ろしくなったのか」

右から7行目 「発想」↓「対応」

G 7・2 右から11行目 「以扱」↓「依扱」

G 7・16 左上のグラフでX軸のaからY軸に平行に描かれている実線を点線にする。

17 右から2行目の数式は「 $\cos \theta + i \cdot \sin \theta$ 」

G 8・13 註4の6行目 「カトリック」↓「マリア」

G 9・12 右から15行目 「再開の」↓「再開を求める」、左から5行目 「従って」↓「そして」

G 9・13 左から13行目 「視える」↓「聞こえる」

G 9・14 左から14行目 「飽き飽きしている教授」↓「飽き飽きしている教授」

G 9・28 左から3行目 「正さ」↓「正しさ」

G 11・3 右から2行目 「友禅染」↓「手書き友禅」

G 12・25 左から2行目 「阪神大震災」↓「六甲大地震」

G 別1・4 左から4行目 ()の中のタイトルは、「尊師」のニヒリズム)

G 別1・6・1 「この註では」↓「ここでは」

G 別1・6 後半(各国家による化学兵器の研究と使用の問題の記述に続けて、欄外に

「↑・国家を超える規模と意思により、例えばエイズウイルスが生物兵器として使用されている可能性や、ウイルスの宇宙空間からの伝播の可能性も視野に入れて追求し続けたい。」

G 別1・7 右から3行目 「それらの」↓「多くの」

G 別1・12 右の註 最後の行 「の最後の方で」↓「や」世界の作品化から見たオウム」
など」

G 別1・16 右の註 左から4行目

「届けようとしている」↓「意思交通を成立させようとしている」

G 別1・19 左から13行目 「大森氏が」↓「大森氏は」

G 別1・29 右から6行目の最後に「、」を入れる。

G 索やG 資については、必要に応じて追加予定。

刊行物の内とくに概念集に関する読者の反応の一部（刊行委により再構成している）多くの示唆と励ましを受け取っているが、要約の仕方が不十分であったり、ホメ過ぎのものや別の意見を対置したいものもある。しかし、参考のためにこの形で、刊行委に紹介しておく。

- ・パンフレットの右ページを活用して資料群をへ無断で掲載しているところが面白い。という以上に、表現過程からはみ出す無意識領域についての示唆でもあると感じている。
- ・用いられている概念や言葉やイメージが、いったんその根底まで遡って呼吸してから表現し直されていることがしばしばあり、その場合には、批評や評価が自分の意見とズレていてもアッと息を飲んで考えさせられる。
- ・ワープロとコピー機があれば、だれでも同じことをできそうだが、それは不可能に近いのではないか。だれもがへ松下のように生きるのは無理であるように。
- ・共感と反発が自分の根拠のなさから来るプロセスを探る契機としたい。
- ・いきなり核心に入り込むスピード感と、一項目から一つ以上の本ないし作品ができる程の質量がある。一見すると批評表現のようだが、あらゆるジャンルを突破している。
- ・ベストセラーになりそうなものもあり、新しい変革運動の根拠になる機会でもあるのにそれらに無関心であるのが残念だ。
- ・既成のメディアや今後の新たなインターネットなどの技術面を逆用し止揚しようするような構想と、それが具体化していく時に生じうる大変換のヴィジョンがかいま見える。
- ・全ての既成概念の把握と転倒という意図が、たんに目の前の既成概念（制度や関係を含む）への反発としての論評の形態ではなく、戦後、特に69年以降を最も深く潜ろうとする過程を圧迫してくる何かに対する反撃として開始されている。さらに反撃にとどまらず、これまでの表現主体が対象としえなかったものたちをも対象としつつ同時に新たな表現主体として共闘していく方向を指し示している。
- ・これまで論じた範囲は、論じうる範囲の総体からは微少なものであろうが、これまでの論じ方で残りの全てを論じ、解体していく方向は提出されていると思える。これらを表現するために支払ったものは十分に想像できるので、もう何もしないで遊んでほしい気と、これからの何かに注目したい気が葛藤している、というよりへ遊んでい

概念集シリーズに関する

刊行委の討論断片

A―かりに、壊滅した地球のある個所から概念集シリーズを含む我々の刊行物の断片が発見されたとして、特に注意を引く要素はあるだろうか。

B―元素に還元しないで残る可能性や言語的な壁を突破して他の資料と対比しうる主体がある確率は0に近いが、今それを無視して考えた場合、その主体が記号へに注目して解読し始めれば興味をもつかも知れない。さらに、言葉やイメージの動きや生成根拠を分析すれば必ず関連表現の総体に関心を抱くだろう。

C―そんな仮定をするはるか以前に、これまで刊行してきたものが、ごくわずかの読者にしか届いていない意味を深刻に対象化した方がよくはないか。

B―確かに、読者の数は少ないし、これらの刊行物が存在すること自体が知られていないけれども、知られることや読まれることを主要な目的にはしていない。むしろ、今の段階の読者の水増し的な増加は避けて、もっと深く潜行した方がよいとさえ思っている。

C―例外的少数派であることは内容の本質性や先駆性など保証しないのではないか。

B―勿論そうだ。だから、多くの読者をもつ人やメディアをそれ自体として否定的に評価したことはないし、批判する場合も敵としての力量や位置に敬意を払って闘ってきた。しかし、我々の表現以上に戦後過程、とくに69年以降の現実を踏まえた根拠と方法をもつものはないと自負しているし、それは今後の世界状況の中で予測や意図を超えて爆発的応用の時をもつだろう。予兆はあるが、まだ、その時は満ちていない。

A―その時は、どのように判るのか？

B―判らないし、個人ないし少数の力や意図と無関係な方向からやってくるだろう。それまで黙ってハードトレーニングやゲリラ戦に没頭していればよい。いつでもへその時へに対処できるように…。

A―我々が望むかどうかに関わらず、我々の刊行活動や内容だけが不確定な状況を切り拓きつつあることを、国家権力がまっさきに認識しつつある気配はある。破壊活動防止法でオウムを解散させてもへオウムへ以上のテーマを日常茶飯事として論じたり実践したりする存在は、やはり許し難いだろうからね。

C―仮装論の実践による権力との対峙もいいが、これから生まれてくる存在や、始めて何かの契機で我々の刊行物に触れる存在に対して、我々の表現の総体の独自性をどのように提起し、共闘していけるかを考える方がよくないか。

A―ぼくもそう思う。ただ、そうしようとしても対決せざるを得ない質が内包されていることは確かだろう。もう一ついっておきたいのは、そうであるとしても、闘争とか対決とはへ無へ関係な遠い夢が表現の基底とかなたの地平にあることは忘れないでおこう。

C―それは、表現していく心構えについてだけではなく、表現の根拠やジャンルや内容について絶えず既成のフィールドを広げる方法としてもいえるね。

構成や内容について最低限どころにとめていた原則があるとするれば、今やっと原則という概念で取り出すのであるが、一つは、〈私〉たちを根底のところ規定したり影響を与えたりしている概念（といい切れぬものも含めて）に、いわば無重力状態で出会ってみようとする態度であり、もう一つは、それらに出会った場合には、自分の身体的な時間性の根拠に引き寄せて感触を確かめようとする態度であった。これが、どの程度の成果をもたらしているかは大変ところもないし、提起はしたものの殆ど充分に展開しえていないことも自覚してはいるが、これまでにない解放感が、ふとかすめ過ぎるので、これだけでも今はよいのではないか、と思っている。 概念集4（91年1月）

B―そう聞けば、我々が何かを表現しようとする時、いつも表現対象やジャンルや内容の成立から消滅に至る全条件を予測し、その現在形が最も抑圧されている存在にとっても解放的であるように具体化しようとしてきた意味がよく判る。

C―そのように努力することが意識を超える位相で表現対象やジャンルや内容を決定したり宙吊りにさせたりしている、と考えると何かがよく視えてくるようだ。よい機会だから概念集シリーズの次の形態を模索している位置をここで確認しておこう。

B―概念集・別冊1の序文やあとがきでは、60年代中期の〈六甲〉第五章から第六章への飛躍との対応という指摘しかしていないが、この討論で明確になってきたのは〈六甲〉の場合を含めて、より壮大な実験を無意識に開始していたのであり、そうであればこそ69年やそれ以後の全過程を現在までの方向で潜ってこられたのではないか。

A―〈六甲〉以外に類似ないし対応する例を包括的に把握してみるとどうなるか。

C―地震で散乱した資料群の中に87年に発行した〈時の楔への／からの通信〉があり、注目すべき記述を見つけた(希望者に配布可能)。ここには、松下を媒介する表現の周期が71年の表現集深夜版、79年の時の楔通信の発行開始、87年の発行委託提起(と同時の可視的な発行の宙吊り)が8年のリズムを帯びているという指摘がある。この87年には概念集を含むパンフレット群の刊行が開始され、それから8年を経過した95年に概念集シリーズに関する今度の飛躍がある。

B―確かにそうだ。それぞれの8年というリズムは意識していなかっただけに刊行主体にとってこそ衝撃的だ。これは個人的ないし刊行委の条件とか決断というレベルを超えている例でもある。

A―個人的な決断というレベルを超えている例として連想するのは、概念集シリーズの段階では、入院・手術、地震、オウム事件との交差があるし、表現集深夜版や時の楔通信発行段階でもいくつか想定できる。どの場合も、均衡点のとり方が重要な核心にある。

C―我々が今すぐに意味づけをしない方がよい気もする。必ずだれかがやるだろうし、その作業の主体になっていくことを我々も目指すとして…。むしろ、8年周期のリズムの特性を、とりわけ時の楔通信から概念集への交移に関して具体的にいうとどうなるか。

B―一言でいえば、特定の時間・空間・関係を普遍的な時間・空間・関係へ拡大しようとする試みが無意識の必然としてあったのではないか。大学闘争とか全共闘運動に直接の関わりがない人々と共通の場に立ちつつ相互の切実なテーマを追求したい、いや、せざるを得ない前面に押し出されたということではないか。

A―その場合も、普遍性を目指していながら固有性に出会ってしまう関係、それが周期に影響しているのは確実であるとして、その関係の壮大さ、とらえ切れなさが、次の周期をラセン状にもたらしめているのだろう。

C―ラセン状というヴィジョンは、概念集シリーズに何度も出てくるが、その場合も無理に方法化していないからこそ、予測以上の成果をつくり出しているように思う。G4のあとがきに相当する〈註〉に重要な記述がある。(このページ右に再録)

こういうことを考えたのは、概念集9は1〜8の次の周期にある特性からだけでは了解しがたい出現の仕方をしていると感じるからである。仮装的に別のいい方をしてみると、概念集9は、松下の〈死〉後に、刊行委が残されたメモやフロッピーディスクを整理してまず目についたフロッピーディスクからの表現を開示する位相に対応している。それぞれの表現は、いくつかの領域ですでに発表されているものではあるが、統一的に構成してみると、個々の表現だけを読むのとは異なる意味も発生してくるようであり、しかもどのよう異なるかが充分には把握しえない感触があり、それが前記の〈重心〉の発想に交差しているのである。

概念集9（93年11月）

B1G1〜8後の9の序文にも対応するものがあるよ。(このページ右に再録)

A1構成の放棄ないしその逆用ともいえるこの感覚ないし方法は絶えず基調音のように鳴り響いている。これは一体何だろう。死や破壊に接しているようでありながら、創造の契機でもあるし。このようなラセン状の過程は他に何箇所も指摘することができ、いわば未知の表現をつくり出す遺伝子染色体のn重構造になっているのかも知れない。

B1うーむ、よく判ってきた領域と、それによって一層判らなくなってきた領域がある。しかし、その不確定性こそが表現主体をさらに前へ押し進めるのだろう。

A1突然だが、ドゥルーズの突然の「へ自死」(95年11月4日)は、自己を含む情況の不確定性の解き方に絶望した思想家が自己を含む情況の不確定性を自然重力に委託するという方法によってそれを「へ処刑」したのだといえないか。

C1我々はかれほど明晰に絶望できないし、してはならないと思う。しかし、かれの分も苦しみ、模索し続けよう。「へ重力」概念についても、既成の科学が見落としている範囲と方向が微かに感じられるので参考にしつつ、「へ地獄」で闘い続けたい。

B1「へ地獄」といえば、G3の「へ地獄へ至る門」の中にある記述(G資・8右を参照)を想起する。この討論過程はシリーズ総体の変移の契機に重点を置いて語っているが、「へ地獄」を描き、それと闘っていく方法としての概念集という意味も再度とらえ返しておきたい。

C1その描き方を既成ジャンルを超えて展開しよう^とする時、全ての制度的なものと衝突するのは自明であるとして、G6や10で提起したようなn通りの表現主体、n通りのパ
ンフという試みは有効であったし、今後も予測以上の方法があるのではないか。

A1その意味でも、個別テーマやシリーズ総体や表現情況とより深く格闘していく必然から、これまでの過程からの飛躍があるといえるようにしていきたいね。

(全員が討論を持続していくことを確認していったん解散)

〜一九九六年一月〜 刊行委員会 (討論の続きに関心ある読者は参加して下さい。)

訂正リスト

概念集への補充資料

24ページ 「春の座談会」 1段目右から8行目 「言い方には」 ↓ 「言い方は」

1段目左から2行目 「人間の側である。」 ↓ 「人間の側であると
しても。」

3段目左から②³行目 「六甲活断層」 ↓ 「六甲活断層の振動」

31ページ 右から2行目 「構想」 ↓ 「構成」

概念集への索引と註

3ページ 序文の左から3行目 「しかし」 ↓ 「そして」

26ページ 最終行 「第13」号21ページ ↓ 第12」号34ページ

行の最後に「右」を加える。

33ページ G9・12 の訂正を示す個所に続けて、次の補充をする。

左から5行目 「従って」 ↓ 「そして」

37ページ あとがきの左から7行目 「予測」 ↓ 「想定」

5行目 「との対比」を取る。

2行目 「風の強い日の」 ↓ 「風の強い日に」

34ページ右 最初の註の（ ）の中を次のようにする。 ↓ （刊行委により再構成し、多く

の示唆を受け取っている。要約の仕方が不充分であったり、ホメ過ぎのものや
別の意見を対置したいものもあるが、参考のためにこの形で紹介しておく。）

34ページ右 左から2番目の反応を次のようにする。

・全ての既成概念の把握と転倒という意図が、たんに目の前の既成概念（制度や関係を舍
む）への反発としての論評の形態ではなく、戦後、特に69年以降を最も深く潜ろうとす
る過程を圧迫してくる何かに対する反撃として具体化されている。さらに反撃にとどま
らず、これまでの表現主体が対象としえなかったものたちをも対象としつつ同時に新た
な表現主体として共闘していく方向を指し示している。

概念集・別冊1 11ページ 最後の行を次のように訂正し、中島みゆきの自筆の歌詞を

添付します。

「宇宙（そら）の掌（てのひら）の中 人は永久欠番」

100億の人は
忘れ 見指ても
宇宙の掌の中
人は永久欠番
宇宙の掌の中
人は永久欠番

あとがき

序文に記した方向で作業を開始したが、初めての試みであるためと、何かを自由に表現していくのとは対極の手触りのために、戸惑ったり、苛立ったり、奇妙な疲れに襲われたりした。しかし、それでも、作業の範囲をこれまで未知の方向に設定して探検する楽しさや発見もなかったわけではない。いや、次第に後者の量が増加してきたともいえる。今後また必要な機会に、他の既刊パンフレット群について同じような作業を試みようかとさえ思っている。

これも序文に記したが、この索引に眼を通す読者は、これまでの概念集シリーズに対して抱いていたイメージが揺れるのを感じるのではないだろうか。その揺れを何かに応用していただければ、刊行の基本的な意図は達成されているといえる。勿論、今回の試みは過渡的な不十分なものであるから、訂正の補充は勿論のこと、分類や表記などの仕方についても提案していただく必要性は大いに感じている。ただ、今回の試みを提出しておくことにより、私がいくつかの条件によって今後の作業が不可能になるとしても、だれかが既刊の全表現について同位相のより厳密な作業を具体化していくための手掛かりを作ることができた、という安堵はあり、もしかしたら、この感覚に達するために今回の作業に没頭したといえるのかも知れない。

ホッとしたついでに、この作業が可能になったいくつかの条件の一つに麻原氏に関する第1回公判（95年10月26日）が「ポア」されて96年1月以降にズレこんだことをのべておきたい。これによって私たちに獲得された時間と支配層（や大多数の日本人）の失望は、いま^{概念集}予測する以上の意味をもっているであろう。警視庁と皇居の間の道路を警備している警察官の足元に落ちている、まだ踏みつぶされていないギンナンを（1・17六甲大地震後の斜面で拾ったギンナン^{トル}の対比）を想起しつつ、拾ってから「幻の11月戦争」の向こうへ歩み、戻ってから火で焼いて皮のはじける音に聴き入りながら、私はそう考えていた。

私たちが概念集を基軸とする表現を再確認する契機は特に六甲大地震やオウム情況との関連においてだけではないが、それぞれ風の強い日^にのギンナン拾いをした時の微かな自負が、今後の表現の根柢を深めていることは確かである。

内容や刊行過程についての質問／提起などは左記へご連絡下さい。(概念集9や10のへあとかき)に記したような不確定状態にありますが、連絡は可能です。

〒657 神戸市灘区赤松町一の一 松下 昇気付 刊行委員会

☎とfax 078・821・4984

刊行リスト(定価はなく、読者の何らかの表現と交換するのが原則です。ただし、共同作業のためのカンパは歓迎します。)郵便振替口座№01150・3・42929
松下 昇(についての)批評集

α篇1(88年10月)、2(89年6月)、3(95年6月)、…α系は国家による批評

β篇1(87年9月)、1更新版(94年3月)、2(88年9月)、2更新版(94年9月)

3(94年9月)、4(94年9月)、…β系はマスコミによる批評

γ篇1〜4(87年11月〜88年3月)、5(88年11月)、6(93年9月)、

7(93年9月)、…γ系は個人による批評

表現集1(88年8月)、2(88年12月)、3(94年4月)、

発言集1(88年9月)、2(88年12月)、3(94年5月)、

神戸大学闘争史1年表と写真集1(89年5月、その後さらに更新中)

神戸大学闘争史1別冊1(93年4月)、別冊2(93年4月)、

(3・24)証言集・上巻と下巻(89年12月〜90年1月)、

菅谷規矩雄追悼集(90年10月)、

救援通信最終号(91年5月)、

〈6・20討論の記録1不確定な断面からの出立1〉(91年10月)、

正本〈ドイツ語の本〉(77年9月)

五月三日の会通信1〜26(70年7月〜81年12月)、訂正リスト(93年5月)

時の楔1へV語に関する資料集1(78年10月)、時の楔への／からの通信(87年9月)

時の楔通信第へ0〜へ15〜号(78年10月〜86年7月)、訂正リスト(94年6月)

概念集1(89年1月)、2(89年9月)、3(90年5月)、4(91年1月)、

5(91年7月)、6(92年1月)、7(92年3月)、8(92年11月)、

9(93年11月)、10(94年3月)、11(94年12月)、12(95年3月)、

別冊1ーオウム情況論1(95年10月)、

概念集シリーズへの索引と註(96年1月)

概念集シリーズへの補充資料(96年1月)

序文とあとかきから見た既刊パンフのリスト(93年1月)、2(95年1月)、